

群 教 セ	G10 - 01
	平23.243集

# 道徳教育を活性化する 学年ブロックのマネジメント

— 「学年における指導計画」を活かした道徳教育の推進 —

長期研修員 武井 貞子

## 《研究の概要》

本研究では、学年ブロックの道徳教育において、2年間で育てる児童の姿をとらえ、協働性・同僚性をもって「学年における指導計画」を作成しながらマネジメントすることにより、指導の効果を高める取組を行った。具体的には、話合いの観点シートを使って、児童の道徳性や指導上の課題を学年ブロックで話合い、指導の工夫を活かし合うことで、指導の重点化と連携を図り、学校の道徳教育の活性化を目指した。

**キーワード** 【道徳 協働性 マネジメント 「学年における指導計画」 話合いの観点】

## I 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説道徳編では、子どもたちの実態や指導上の課題を踏まえ、学校や学年段階ごとに、道徳教育で取り組むべき重点を明確にすることと、各内容項目を児童の実態を基に把握し直し、指導上の課題を児童の側から具体的にとらえ、実態に見合った指導をしていくことを示している。また、指導を進めるにあたっては、機能的な協力体制で指導の効果を高めることの重要性が挙げられている。教師が共通の課題意識をもち、協働性・同僚性をもって道徳教育にチームとして取り組むことができれば、指導の重点化と連携を図ることができ、道徳教育は活性化すると考える。

学年ブロックで道徳教育を進めることで、2年間で育てたい児童の姿と指導すべき内容を明確にし、系統性をもった方針を立て、指導の連携を図ることができる。そして、指導計画を立案し、協働性・同僚性をもって相互に指導を活かし、実践、改善することにより、指導の効果を高めていくことができる。道徳教育を協働して計画的に進めるためには、学年で指導の重点を具体化していく必要があると考え、全体計画の別葉として「学年における指導計画」を作成した。これは、ワークシートに児童の実態、各教育活動の具体的な指導の関連性、評価と改善策の項目を記入していきながら、無理なく道徳教育を学年でマネジメントしていける仕組みである。これにより、道徳教育の全体計画から指導の重点を絞ることができ、協働性・同僚性をもって指導をマネジメントしていくことができ、児童の実態に沿った実効性のある道徳教育になる。この指導計画を全体計画と学級における指導計画の間に位置付けることで、学校全体の道徳教育と学級における道徳教育をつなぐことができる。

指導計画を活かした道徳教育を進めるブロック会議や学年会では、チームとしての指導観を高め、目的に沿ってよりよい手だてを考えやすくする話合いの観点が必要である。教師一人一人の経験や指導方法等から有効な手だてを導き出す観点を押さえることで、指導の質が高まるとともに、実効性のある話合いになり、学年ブロックの道徳教育の効果を高めることができる。

以上のことから、本研究では、話合いの観点を基に「学年における指導計画」を協働して作成していきながら、学年ブロックの取組をマネジメントし、指導の重点における具体的な手だてを出し合い、実践することにより、道徳教育の活性化を図ることができると考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

学年ブロックの道徳教育において、話合いの観点を基に「学年における指導計画」を協働して作成し、マネジメントしながら指導の手立てを出し合い、実践していくことにより、道徳教育の活性化を図ることができることを明らかにする。

### Ⅲ 研究の内容

#### 1 基本的な考え方

##### (1) 道德教育の活性化とは

道德教育において、教師が協働性と同僚性をもって、共に指導観を深め、指導の方向性を明らかにし、具体的な手だてを出し合い、実践する姿であるととらえた。学年で指導をマネジメントすることで、児童の実態の分析や指導観を基に、各教師の指導方法等を出し合い、相互理解と学び合いを図る。また、実践の成果と課題を共有することにより、さらなる指導の工夫が図られ、指導の質を高め合うことができる。

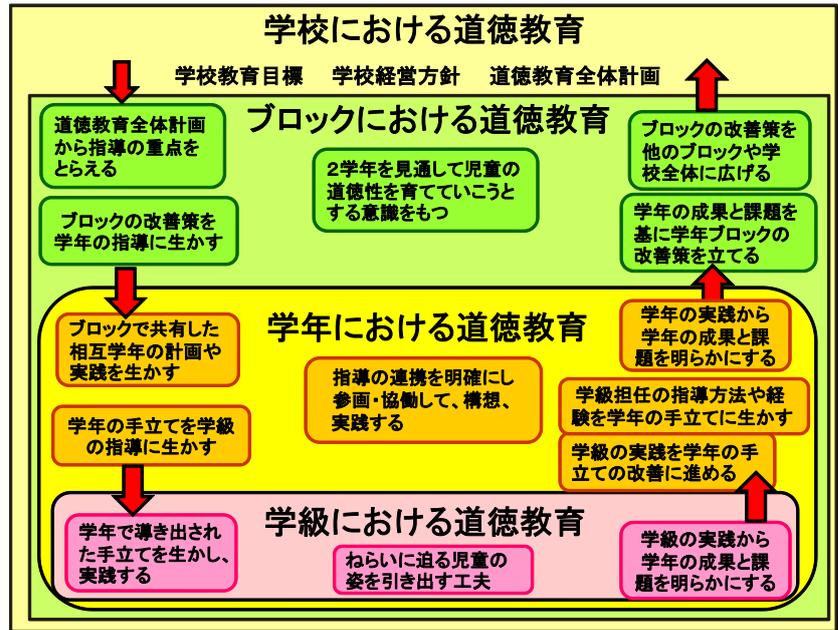


図1 研究構想図

学年で導き出された手だてを

活かし、学級ではねらいに迫る児童の姿を引き出すために具体的な指導を行う。学年ブロックでは、2学年を見通して連携を図った道德教育の方向性を明確にすることにより、系統性のある指導となる。これらの学年ブロックの取組や改善策を学校全体に伝えることにより、他の学年ブロックとのさらなる連携が生まれ、連続性のある効果的な道德教育が行われ、学校全体での活性化が図られる。

##### (2) 学年ブロックのマネジメントとは

道德教育の指導の効果を高めていくために、「学年における指導計画」を作成しながら学年ブロックの取組をマネジメントする。マネジメントにおいては、児童の実態に沿った道德教育を行うために、課題に対する十分な情報収集を行い、実践の振り返りと改善を即時性をもって行う。以下、流れについて説明する。

###### ① R(Research 学年ブロックでの情報収集)

学校評価、児童の道德性や指導の実態について担任回答のアンケート、日常の児童の観察から、課題を洗い出す。児童の実態だけでなく、指導の実態からも課題の原因を分析し、学年ブロックとしての重要性の高いものを焦点化する。この取組により、学年ブロックの指導の方向性が明確となり、「学年の指導計画」の立案につながる。

###### ② P(Plan 学年における指導計画の立案)

焦点化した課題に基づき、めざす児童像、指導の重点、各教育活動における具体的な手だてを構想することにより、各教育活動において関連を図った指導となる。さらに、学年で立案した計画を学年ブロックで共有し相互に取り入れることにより、系統性をもった計画となり、学年の実践につながる。

###### ③ D(Do 学年の実践)

道德の時間の授業づくり、日常生活や教科等の指導、家庭・地域との連携を図りながら実践を行う。授業づくりでは、話合いの観点を基に教師の指導方法等から有効な手だてを出し合う。授業実践では、授業の工夫や実践後の気付きを書いた拡大指導案に授業改善のポイントを書き込んで共有化を図る。この取組により指導の工夫が図られる。

###### ④ CA(Check & Act 学年ブロックでの振り返りと改善)

学年会において、実践の成果と課題を基に改善策を立案する。学年ブロック会議では、学年の

改善策を基に、学校全体に広げていくべきものを出し合い伝える。この取組により、他学年に広がりさらなる連携が図られる。

### (3) 「学年における指導計画」とは

学年の道徳教育をマネジメントしながら、話合いの観点を中心に、課題や目的を明確にし、指導の重点ごとに各教育活動の手だてを関連をもたせながら具体化するために作成していくものである。この計画を作成していくことによって、協働性・同僚性をもった取組になり、学年の道徳教育の指導の効果を高めることができる。

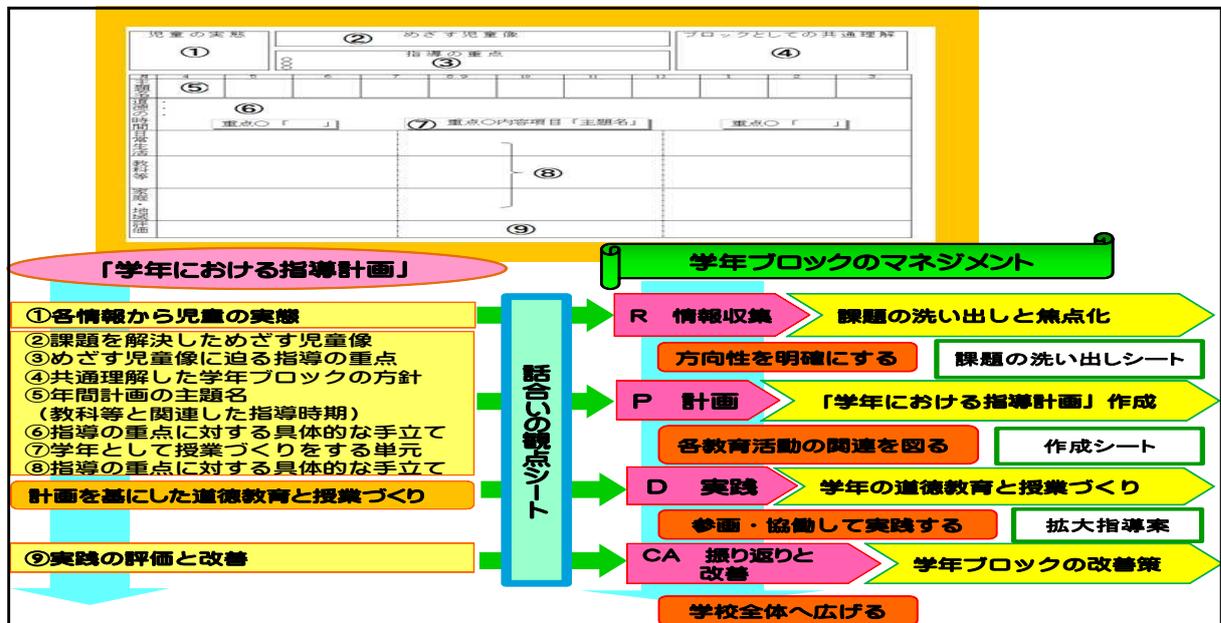


図2 「学年における指導計画」作成と学年ブロックのマネジメントの流れ

### (4) 話合いの観点シートとは（資料編 資料2参照）

学年会やブロック会議におけるR P D C Aの過程において、目的に沿って教師一人一人の経験や指導方法等を基に話合い、指導観を高め、有効な手だてを導き出すために作成したシートである。このシートを使って話し合うことにより、共通の課題をもって、学年の道徳性を育てていこうとするモチベーションが高まり、主体的な実践や改善につながる。

## IV 研究の計画と方法

### 1 実践計画(実施時期8月～11月)

対象	小学校 第3学年担任 第4学年担任
実施期間	平成23年8月5日 ～ 12月22日

### 2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証方法
R 情報収集	○学年ブロックで、課題の洗い出しと焦点化を図ったことは、学年ブロックの道徳教育の方向性を明らかにするとともに、学年ブロックの教師が見通しをもって児童の道徳性を育てていこうとする意識をもつことに有効であったか。	・学年ブロック会議で出された意見。
P 計画	○「学年における指導計画」を作成したことは、各教育活動の指導の関連を図ることに有効であったか。	・学年で立案した「学年における指導計画」の内容。

D 実践	○話合いの観点を基に、学年共通の具体的な手立てを出し合い実践したことは、学年教師の参画力と協働性を高め、指導の質を高めることに有効であったか。	・学年会で出された手だてと教師の指導の様子、児童の様子。
CA 振り返りと改善	○学年の改善策を基に、ブロック会議で、他学年に広げるべきものを出し合い、伝えたことは、学年ブロックの取組を学校全体で共有し、さらなる連携を図ることに有効であったか。	・学年会、ブロック会議で出された改善案。 ・全体研修会後の低・高学年の教師の意見等。

## V 研究の結果と考察

### 1 R 情報収集

#### (1) 実践の概要

ブロック会議で、学年ブロックの課題として考えられる情報（学校評価の結果、児童や指導の実態のアンケート、日常での児童の観察）を話合いの観点（資料1）を基に洗い出し、学年として焦点化し、学年ブロックの方針を立てた。

#### 資料1 R 情報収集におけるブロック会議の話合いの観点

○学校評価の結果、アンケート（児童の道徳性や指導の実態）、日常の観察から課題といえることは何か。その原因は何か。  
 【話題の出し方】児童、家庭・地域、指導の実態などの側面から原因を考えてみましょう。  
 ○必要性・重要性の高い課題であり、2学年を見通して、育てたい学年児童の道徳性は何か。  
 【話題の出し方】学年で協働して取り組んでいきたい課題の順位を挙げて絞っていきましょう。

#### ① 各情報から課題を洗い出す

##### ア 学校評価から課題をとらえる

学校評価の結果において、3年生と4年生の児童や保護者の回答から「あいさつ」や「善悪の判断力」「相手の立場や気持ちを考える」項目が課題ととらえた。課題となった原因を話し合うと、指導の継続や工夫が不足していること、判断力を養う指導方法を共有していきたい等の意見が出され、指導の実態からも課題となる原因があることを共通認識した。

##### イ 学年児童の道徳性と指導の実態について、担任が回答したアンケートから読み取る

児童の道徳性については、「郷土愛」と「愛国心」を課題ととらえた。その原因を分析すると、「郷土の活動に参加する機会が少なく、郷土のよさに気付く機会も少ない」「郷土愛や愛国心の学習が十分ではなかった」「中学年の児童の実態から、まず郷土愛の学習に目を向けた方がよい」という意見が出された。郷土愛についての指導の実態を分析する意見を出し合えたことは、児童の道徳性における課題が把握され、指導の必要性が認識されたと考える。

指導の実態からは、「全体計画における中学年の指導の重点に対する具体的な手だての工夫が必要」「2学年を見通した指導が不足」という課題が指摘された。原因としては、「中学年の指導の重点に対する認識の不足」「昨年度末に作成された全体計画にある中学年の指導の重点は、現在の中学年児童に一致しているとは言い切れない」「中学年の内容項目を2年間で達成すべき内容としてとらえた指導の不足」という問題点が出された。こうした意見から、学年ブロックの教師が、児童の道徳性を2年間で育てるべきものとして再認識できたと考える。

##### ウ 日常生活での児童の様子から課題をとらえる

児童を観察してとらえた課題として、3年生からは「進んであいさつする心」「正しく判断して行動する態度」、4年生からは「進んで思いやりのある行動をしようとする心」「自分で考えて行動しようとする態度」などが出された。これらの意見から、日常での児童の実態からも課題が認識できたと考える。

## ② 各情報の分析を基に課題を焦点化する

ア～ウで出された課題を踏まえ、児童や指導の課題と考えられるものを「課題の洗い出しシート」に付箋に書き出し焦点化した。必要性・重要性のある課題に注目したところ、資料2のように3年生と4年生で共に郷土愛が学年ブロックの課題となった。これにより、学年ブロックとして2年間を見通し、共通理解を図りながら指導を行う重要な課題としてとらえることができた。

### 資料2 3・4学年で焦点化された課題

3年生○礼儀	(後からあいさつを返す児童が多いので、自分から進んであいさつできるようにしたい)
○正義・勇気	(よく考えずに行動する場面が見られるので、正しく判断して行動できるようにしたい)
○郷土愛	<b>(郷土に対する関心が低く、指導も不十分だったので、重点的に指導していきたい)</b>
4年生○思いやり	(思いやりのある言動が足りないので、相手のことを考えた行動ができるようにしたい)
○郷土愛	<b>(郷土愛の心が育っていないことと、工夫した指導が必要である)</b>
○勤労	(人のために自分から進んで働く子になってほしい)

## (2) 結果と考察

課題を挙げ、指導の面からも原因を分析したことにより、児童の課題と指導の実態の両面から、学年ブロックとしての課題の洗い出しができた。そして、必要性・重要性の高いものという視点を示したことにより、共通理解の基に学年の課題が焦点化され、学年ブロックの方針と学年で取り組むべき方向性が明らかになった。また、「共に郷土愛を育てていきたい」という意見から、学年ブロックで連携して課題に取り組んでいこうとする意欲が高まった。

以上のことから、学年ブロックで、課題の洗い出しと焦点化を図ったことは、学年ブロックの道徳教育の方向性を明らかにし、課題をもって児童の道徳性を育てていこうとする意識をもつことに有効であったと考える。

## 2 P 計画

### (1) 実践の概要

学年会において、焦点化した学年の課題を基に、学年の目指す児童像、指導の重点とその手立てを、話合いの観点(資料3)を基にa b cの手順で計画を立案した。

- a 焦点化した学年の課題を解決した児童の姿を出し合い、学年の目指す児童像の設定。
- b 目指す児童像に迫るために、重点的に指導すべき児童の道徳性の設定。
- c 指導の重点ごとに、「道徳の時間」における指導内容に関連をもたせた教科等、日常生活、家庭・地域との連携における具体的な手立ての立案。

教科等については、道徳の時間との指導の時期の調整、教科等のねらいや内容と指導の重点の関連性をとらえる。日常生活の指導については、児童の実態を踏まえて、指導に適した場面や実態に応じて段階を踏んだ指導、児童に意識させたり見通しをもたせたりする言葉がけの内容について出し合う。家庭・地域との連携については、実態把握するための手立てや、家庭に対する協力の方法、地域で資料として活用できるものについて調べ、出し合う。

これらの各教育活動における指導について、関連が深く効果的な指導となるものを立案する。

### 資料3 P 計画における学年会の話合いの観点

- |  |
|--|
| ○課題から考えられるめざす児童像は何か。<br>○めざす児童像に迫るために、重点的に指導すべきことはどんなことか。<br>○重点的に指導するための具体的な手立ては何か。(道徳の時間、日常生活、教科等他)<br>【話題の出し方】家庭・地域との効果的な連携のもち方を考えてみましょう。 |
|--|

### ① 3年生の学年会における計画の立案

指導の重点である郷土愛における教科等と関連した指導については、「社会科では地域のお店

の工夫等を学習する」「総合的な学習の時間で地域の施設等を調べるので、施設等のよさを知ることができる」「社会科や総合的な学習の時間における関連した内容と道徳の郷土愛の指導との関連を図る」といった意見が出された。これらの意見から、2学期に道徳の郷土愛に対する指導を重点的に行うことにした。また、郷土とのかかわりを実態把握するために、保護者が郷土にかかわったことを児童が聞き出す活動を行うことで、家庭との連携を図ることにした。このように、郷土愛の指導については、教科等と関連した指導、家庭との連携、指導の時期を工夫するなどの手だてが具体化されたと考える。

この他の重点の一つである「正しく判断し、間違いは素直に認め、友達の過ちは勇気をだして注意する」については、日常生活の指導を中心に具体的な手立てを出し合った。児童の実態に応じて「自分で考える→友達に相談する→先生に聞く」という段階を踏んだ指導、「自分の間違いを認めたり、友だちの過ちを注意できたりしたときは、必ず担任がほめる」「友だちに注意されたときは、教えてもらったことに感謝の気持ちを伝える指導」と、具体的な手だてが出された。

これらの手だてを活用しやすいように、指導の重点ごとに「学年における指導計画」の作成シートを基にして書き込んでいった。(表1)

表1 「学年における指導計画」(第3学年)

児童の実態		めざす児童像		指導の重点		中学年としての共通理解						
学校評価やアンケート(児童の道徳性や指導の実態)、日常生活の児童の様子等から課題としてとらえられるものを挙げる。		正しい判断で行動し、自分のまわりの人や地域を大切にすること		<ul style="list-style-type: none"> <li>①進んであいさつをし、だれに対しても温かく接する児童を育てる</li> <li>②自分達の住む地域のよさを知り、大切にしていこうとする児童を育てる</li> <li>③正しく判断し、間違いは素直に認め、友達の過ちを注意できる児童を育てる</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科等と関連した指導が必要</li> <li>○社会科や総合的な学習の時間とかかわりが深いので、関連させることができる。</li> <li>○家庭や地域社会との連携が大切</li> <li>○家族の地域に関する知識やかかわりについて実態を把握する。</li> <li>○地域の行事や活動、ゲストティーチャーについて調べる。</li> </ul>						
月	4	5	6	7	8 9	10	11	12	1	2	3	
主題名	・自分の考えで困っている人に自然を守る	・クラスの良いところ ・本当の友達 ・きまりを守り気持ちよく ・隠さず正直に	①礼儀正しい振る舞い ・みんなで使う物 ・日本の伝統 ・くやしさをバネに	①気持ちをこめて ・身近な自然を大切に	・涙の友情 ・かけがえない命 ・できなかった親切	・みんなのために ②伝統を受け継ぐ ・感謝の気持ち ・気高い行い	・自分のよさ ・節度ある生活 ・命を救いたい ・決まりを守るといふこと	・働くって楽しい命 ・母の愛 ・かけがえない命	・自分の考えで行動 ・素直な心で言えなかった私 ③今度は言える	・支え合う心 ・目標に向かって ・友達と分け合って友情を深める	・さげすまない親切 ・温かい家族	
道徳の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいとする価値に関わる指導観を明確にし、資料の活用や工夫をする。</li> <li>・学習指導過程や学習活動の工夫をする。</li> <li>・展開前段で、児童の実態を踏まえたねらいに迫る展開等の工夫(中心場面、中心発問、基本発問、補助発問)をする。</li> <li>・児童の実態を踏まえて、後段の活動(ねらいに迫って自己を見つめる)の工夫をする。</li> </ul>											
日常生活	重点①礼儀「礼儀正しい振る舞い」			重点②郷土愛「伝統を受け継ぐ」			重点③正義・勇気「今度は言える」					
教科等や教育活動	①自分から進んであいさつができるように、声をかけたり、できた子を賞賛したりする。			②朝の会等で「ふるさとじまん」を担任や児童が伝え合うことにより、郷土のよさを知り、関心をもたせる。			③自分で判断させたいときは選択肢を与えたり、判断に迷うときは、自分の考えを友だちや担任に言ってから行動するように指導する。					
家庭との連携	①授業や終業のあいさつをきちんとする。相手に頼むとき、してもらったときに必ず言葉をかける。			②【総合的な学習の時間】「この町大好き探検隊」 ・調べた地域の施設等のよさを伝え合う。 ・2年生や保護者にも伝え、調べたことを校内に掲示。			③まず自分で考え、間違いは素直に改める。友だちに過ちがあれば、相手の気持ちを考えて助言ができるようにする。					
評価	・重点的に行っている指導について、学年便り等で、学校の様子を知らせたり、協力のお礼やお礼を伝える。			④家族が地域とかかわったことを児童に話してもらい、「ふるさとじまんカード」に書けるようにする。地域の活動等について家庭でも話題にしていだだうお願いする。			④家庭でも、児童が自分で考える時間を設定してもらい、正しく判断できたときにほめてもらう。					

## ② 4年生の学年会における計画の立案

郷土愛については、社会科で郷土のために尽力した「岡上景能」について、2学期に授業づくりを中心に行うことにした。家庭・地域との連携については、「岡上景能以外で、この地域に尽力した人についてよく知っている人はいないだろうか」と、資料としての活用を考えた意見が出された。日常生活等での具体的な指導については、「担任が自分にかかわった地域や尽力した人について、朝の会等で話をしてみるのはどうか」という意見から、児童に郷土に対する関心をもたせ、郷土のよさに気付かせることができると、共通理解が図られた。これらの意見により、日常生活等における思いやりや勤労の具体的な手立てや、郷土愛における地域人材の活用、日常生活での指導が具体化され、関連が図られたと考える。

この他の重点の一つである「思いやり」と「勤労」について、日常生活の具体的な手だては「自分のまわりの人を思いやり進んで親切にする指導と、進んでみんなのために働く指導を関連して行う」「帰りの会で“ボランティアタイム”として、自分の係の仕事や係以外のクラスのためになることも見つけて進んで働く指導を行う」などが立案され、指導計画に書き込んだ。

## ③ 学年の計画を学年ブロックで共通理解し、連携を図る

学年会で立案した計画について、学年ブロックで共通理解を図った。3年生では、家族が地域とかかわったことを児童が聞いてくる活動を設定したことを受けて、4年生では、「郷土にかかわった活動や郷土のために尽力した人等について、家庭にアンケートを行い実態を把握する」という計画が加えられた。これは、アンケートを書くことにより、家族と児童が郷土について話す機会がもて、児童に興味・関心をもたせることもできるというよさを取り入れたものである。

また、4年生が自分とかかわった地域のことを担任が学級で話すという計画を受けて、3年生でも担任がかかわった地域のよさを伝える機会を朝の会等でもつ。児童が家族に聞いた地域のことを“ふるさと自慢”として帰りの会等で伝え合うという計画が加えられた。

## (2) 結果と考察

学年の目指す児童像、指導の重点を設定し、指導の重点における具体的な手だてを、児童の実態や活動のねらい等を踏まえながら話合いの観点を基に出し合い、各教育活動において関連を図った指導を設定することができた。また、学年の計画を学年ブロックで共有したことにより、学年ブロックを意識した指導となり、学年の指導の計画に相互に取り入れることができた。

以上のことから、「学年における指導計画」において、指導の重点における各教育活動の具体的な手だてを出し合ったことは、各教育活動の指導の関連を図ることに有効であったと考える。

## 3 D 実践

### (1) 実践の概要

「学年における指導計画」を基に、授業実践に向けてさらに具体的な指導を出し合い、学年共通の手だてをもって実践した。

#### ① 3年生の実践(道徳の時間の授業づくりと道徳教育)

2学期の指導の重点とした郷土愛の指導については、授業づくりを中心に行った。道徳の時間については、話合いの観点(資料5)を基に授業を構想していった。学年共通の手だてとして、中心場面をとらえ直し、中心発問とそれに対する児童の反応と補助発問、自己を見つめる活動について話合い各学級で授業実践を行った。

#### 資料5 D 実践における学年会(授業構想)の話合いの観点

○指導観を基に本時のねらいは何か。

【話題の出し方】内容項目と児童の実態を擦り合わせると、ねらいとする価値は何でしょう。

○ねらいに迫ることができる、児童に最も考えさせたい中心場面と、発問の工夫は何か。

○ねらいと児童の実態、資料に基づいて、自己の生き方を見つめる活動内容と発問は何か。

3年生では、ねらいとする道徳的価値にかかわる指導観について共通理解を図ったことで、児童の実態等を踏まえた本時のねらいを明確にしていけることができた。資料「祭りだいこ」の中心場面の設定については、「良子がおはやしを行い、祭りの高揚感を味わう場面では、練習を頑張った粘り強さに児童の考えが多く傾いてしまう」「良子が妹を祭りに誘おうと思ったことで、今後どのように祭りとかかわっていくかを考えさせる方がよい」「後者の方が郷土への思いが一層深まっていったことを感じ取ることができる」という展開の仕方を工夫する意見が出された。良子が妹を誘おうと思ったところを中心場面とし、さらに、ねらいに迫る意見を引き出すための発問については、「なぜまた祭りにでたいのか」「祭りで何をしたいのか」「どんな祭りにしたいのか」などを設定した。

授業では、良子が妹を誘おうと思ったところを中心場面としたことにより、良子が妹とともに、村の祭りに参加しようとする思いに児童の思考が焦点化された。さらに、話合いで出された補助発問を行うことにより、「祭りを村の名物にしたい」「みんなが感動する祭りにしたい」等の村の祭りに対する良子の思いや願いが引き出され、良子の郷土への思いが高まった意見が児童から出された。学年共通の手だての他に、良子の村の祭りへの思いを隣の児童と話し合わせたり、自分の地域の行事等にかかわったことを聞き合ったりする活動を行うなど指導の工夫が見られた。

この他の3年生の重点である正義・勇気については、日常生活の指導を中心に行った。「自分で考える→友達に相談する→先生に聞く」という段階を踏んだ指導をし、素直に自分の間違いを認めたり、友だちの過ちを勇気を出して注意できたりしたときに、担任が認めほめるようにした。自分の間違いを友だちに注意されたときに感謝の言葉を伝える指導も継続した。児童の言動は、自分で考えずにすぐに担任に「～していいですか」と聞いていたのが、自分で判断した言動である「～します」に変わってきた。また、自分の間違いを素直に認め、注意を受け入れられるようになってきた。

## ② 4年生の実践(道徳の時間の授業づくりと道徳教育)

授業構想では、「徳べえざくら」の学習を踏まえて、郷土を思い大切にする心を育てる授業のもち方については、「自分たちの住む市(町)に限定した学習を設定すれば、児童の郷土への思いが深まる」という意見を基に授業を構想した。自分たちの住む地域に尽力した「岡上景能」(社会科)の学習と関連させ、「“岡上景能”の村を思う気持ちと、それに感謝する村人達の思いを道徳の時間の前段で取り上げてみよう」という構想で一致した。後段の自己を見つめる活動については、「ゲストティーチャーに授業のまとめの場面でなく、自己を見つめる過程で、地域のために尽力した先人や現在活動している人について話をしていただきたい」「その話を聞いて、児童が地域のためにできること、してみようと思ったことをワークシートに書く活動をすれば、郷土への思いが高まっていくのではないか」という意見や、児童の実態を考慮し具体例を提示して考えさせる、などの資料や学習活動の工夫が出された。ゲストティーチャーには、江戸時代に大火から町を守った人と、町の駅のトイレをボランティアで掃除している人々の話をしていただいた。

自分たちの地域について考える学習に限定し、展開を工夫したことにより、資料6のC1～C4のように、自分の町をきれいにしたい等の郷土への思いを基に、自分ができることを具体的に書き、郷土にかかわる自己の生き方を考えることができた。

この他、4年生の指導の重点である思いやりと勤労を関連させた指導については、

帰りの会の「ボランティアタイム」での指導により、自分の係の仕事や係以外のクラスのためになることも見つけて積極的に働くようになってきた。体育で3・4年ブロックで学習するときには、上級生らしく3年生を援助し、お手本になるよう指導したことにより、常に先頭にたって行

### 資料6 4年生 授業の展開後段の児童の反応

T:自分たちの町のためにできることは何でしょう。  
C1:きれいな町にしたいから、ごみを出さないようにしたり、ごみ拾いをしていきたい。花や植物をたくさん植えたい。  
C2:安全にくらせる町がいいから、パトロールをしたり、交通ルールを守ったりする。  
C3:楽しい町にしたいから、祭りなどの町の行事に参加して楽しく取り組みたい。  
C4:みんなが仲良く親切的な町にしたいので、いろいろな人々にやさしく親的にしたい。

動できるようになってきた。

## (2) 結果と考察

授業構想において、ねらいにかかわる道徳的価値をとらえて手立てを話し合うことにより、学年教師の指導観が深まっていった。話し合った学年共通の手だてを実践したことにより、ねらいに迫る児童の反応が見られた。各学級の授業では、ねらいに迫るための補助発問の工夫や切り返しをするなど児童の意見の取り上げ方や、対話をさせるなどの活動の工夫が見られた。それらの工夫を他学級の授業実践に活かし、学年で協働してねらいに迫る授業づくりと実践ができた。

授業実践では、担任の授業の工夫や実践後の成果、課題を付箋に書き拡大指導案に貼り、学年で共有した。その指導案を踏まえて次に実践する担任が授業をした。A教師の実践を踏まえてB教師は、3年生では、話合いの場面で、隣の児童との対話を入れて、自分の考えを出しやすくする。4年生では、ゲストティーチャーと児童との対話がしやすくなるように、ワークシートに書くときにゲストティーチャーから個々に助言をしていただくという工夫を取り入れた。こうした取組は、授業の成果を生かし課題を改善した学年の授業実践になった。

以上のことから、学年の道徳教育において、具体的な手立てを出し合い実践したことは、学年教師の参画力と協働性を高めるとともに、指導の質を高めることに有効であったと考える。

## 4 CA 振り返りと改善

### (1) 実践の概要

話合いの観点（資料7）を基に、学年会では、拡大指導案を使って、指導の振り返りと改善策を出し合い、ブロック会議では、学年ブロックの今後の指導や他のブロックや学校全体に広げるべきものを出し合った。

#### 資料7 CA ブロック会議の話合いの観点

○学年会の改善策から、学年ブロックで今後活かせることはあるか。

○他の学年ブロックや学校全体に広げる手だてはあるか。

【話題の出し方】学年ブロックの取組を、他の学年ブロックに広め、連携が図れる手だては何でしょう。

3年生の学年会では、今後の改善策として、「総合的な学習の時間で、調べた施設等について発表し合うことにより、自分たちの町に対する気付きやよさを伝え合う」「道徳の時間の指導観の理解や展開等の工夫、重点とした指導の継続や工夫」などが出された。

4年生の学年会では、今後の改善策として、「担任も児童の住む地域に対する郷土愛が必要」「年間指導計画において道徳の時間と関連した教科等の配列の工夫」や、「児童の実態把握を基にした指導の工夫」などが出され、今後の具体的な手だてが出され、共通理解を図ることができた。

ブロック会議において、学年会での改善策を基に、今後活かしていけることや、他の学年ブロック、学校全体に伝え広げていけるものについて話し合った。「児童が地域の活動にかかわったことを今後も学級や学年で伝え合う機会をもつとよい」「3年生の総合的な学習の時間のまとめとして、地域の施設等のよさを2年生や保護者に伝える活動を設定してはどうか」「発表の資料を校内に掲示し、他の学年に伝えていくと広がっていくのではないか」「中学年の取組を全体研修会で全職員に伝える」などが出された。これらは、郷土の行事などに進んで参加しようとする気持ちを今後も育てていくことや、3年生の郷土の学習を他の学年や家庭に伝え広げていく手だてとなった。また、学年ブロックの道徳教育を今後も生かし、学校全体で共有し、さらなる連携を図っていくための工夫を出し合うことができた。

### (2) 結果と考察

3年生と4年生の学年会では、指導の重点における学年の実践の成果と課題をとらえて今後の改善策を具体的に出し合うことができた。ブロック会議では、学年会の結果を踏まえて、今後の学年

の指導の工夫や、他の学年や家庭に広げていく手立て等が出され、学年ブロックで共通理解を図ることができた。中学年の取組を全体研修会で全職員に伝えたところ、2年生では、生活科の町探検で自分の町よさに気付く学習を行い、郷土愛の基盤づくりをするという意見が出された。6年生では、総合的な学習の時間の「岩宿人になろう」という単元で、岩宿に生まれた誇りやよさをゲストティーチャーから聞き、先人の働きを学習し、中学年の取組を引き継いでいくという意見が出された。このことから、中学年の取組が学校全体に広がり、低学年や高学年との連携が図れたと考える。

また、教師の取組について、授業構想では多様な視点で話し合い学び合えたこと、協働して授業づくりができたこと、先行の授業を改善した授業実践ができたこと、学年で同質の授業実践ができ、指導の質が向上したこと、2学年ブロックのつながりを考えた計画・指導ができた等の成果が出された。授業等を参観した教師からは、学年教師のモチベーションを生かした授業づくりで、学年共通の手立てで授業実践ができ、郷土愛を高める取組になった。授業の質は実践ごとに高まっているので、次回からローテーションを組むとよい。児童の実態に沿ったマネジメントなので、今後も学校全体に広げていきたいという意見をいただいた。

以上のことから、指導を振り返り改善策を話し合い、伝えたことは、学年ブロックの取組を学校全体で共有し、さらなる連携を図ることに有効であったと考える。

## Ⅶ 研究のまとめ

### 1 成果

- 「学年における指導計画」の作成をしながら、学年ブロックの道德教育をマネジメントしたことにより、児童の実態に沿った指導をチームとして実践することができた。協働性・同僚性を活かした道德教育の活性化を図ることができた。
- 学年会やブロック会議において、話し合いの観点シートを使って話し合うことにより、目的に沿った視点で話し合いができ、有効な手立てが出しやすくなり、実効性のある話し合いになった。

### 2 課題

- 「学年における指導計画」については、学校や学年ブロックの実態に応じて内容構成の工夫や、全体計画や学習指導要領に例示されている他の別業との連携を考えていく必要がある。
- 学校全体の道德教育をさらに活性化するために、実践後に改善策を共有するだけでなく、マネジメントの途中経過を適宜、学年をこえて共有していくことにより、学年ブロック間の連携を深め、指導内容や有効な手立て等の系統性や連続性をもたせることが必要である。

#### <参考文献>

- ・横山 利弘・藤永 芳純・武田 敏彦 監修 広島県三原市立中之町小学校 編著 『心に響く道德教育の創造』 三省堂 (2010)
- ・赤堀 博行 監修 網走市立白鳥台小学校 著 『道德の時間の特質を生かした授業の創造』 教育出版 (2011)
- ・ドラッカー研究室 編著 『図解でよくわかるドラッカー』 アスペクト (2011)
- ・池田 光 監修・編 喜田 菜穂子 著 『きほんからわかるビジネスコーチング』 イースト・プレス (2008)
- ・本間 正人 著 『グループコーチング入門』 日経文庫 (2010)

(担当指導主事 近藤 照久)

